

## 「息子のラグビー応援」



九州レップ 社長

白砂 光規

息子が6歳のときに、ジュニアのラグビークラブ「草ヶ江ヤングラガーズ」に参加するようになってから、一週間の過ごし方がガラッと変わった。それまでは、土曜日にゴルフをして、日曜日は家族と旅行などの予定がなければ海外出張の移動日に充てていたのが、毎週日曜日にラグビーの練習が入ったことから、土曜日のゴルフの回数が減った。出張の移動日が月曜になり、ウイークデイの実稼働時間が減ったのを補おうとして、随分忙しくなった。

練習に打ち込む息子を見てみると、家では見られない一面が垣間見えて頼もしく感じることもある。最初のうちは、ちゃんと挨拶できるのかとか、練習についていけないのかとか世間の親並みに心配したものだが、それなりにやっているようだ。チームが、勝敗よりも21世紀にも通用する人間教育を方針として掲げており、保護者は自分の子どもがいる学年以外の他の学年を指導することになっている。それが子どもたちに自立を促し、成長させているようだ。歴史と伝統のあるクラブチームは、こういうところが違うんだなあとうなずかされる。

保護者同士の交流は、地元出身じゃない私にとってはとても貴重な。名古屋出身の私が福岡に住み着いてもう13年になり、知人・友人はだいぶ増えたが、名刺交換から始まらないお付き合いはそうはない。チームの戦略会議と称して時々開かれる他のお父さん方との飲み会は、社会的な立場抜きでいろんな話が交わされる。今や息子のクラブが、大事なコミュニティになっている。

CINEMA&DRAMA

## シネドラ

今月の映画「終わった人」

6月9日(土)より全国で上映中

サラリーマンなら誰にでもいつかは訪れる「定年」。高齢化社会となった日本の課題でもあるこの節目にスポットを当てた本作は、第二の人生と向き合っていく高齢者の実態とリアルな夫婦・家族の在り方を、心地良いユーモアと味わい深い人間ドラマが交差する、心温まるコメディとして描く。

一流銀行のエリート街道を歩んでいた田代壮介(館ひろし)は、同期のライバルに負けたことで出世コースから外れ、子会社に出向させられてしまう。そのまま銀行に戻ることなく、ついに定年の日を迎えてしまった。これまで仕事一筋で生きてきた壮介は「やることがない…」という現実と直面し一念発起。カルチャースクールの受付嬢・浜田久里(広末涼子)に想いを寄せ、一方では、通い始めたスポーツジムで知り合った新興IT会社社長・鈴木直人(今井翼)から会社の顧問になって欲しいと頼まれる。生気を取り戻す壮介だったが、それも束の間、次々と災難が降り掛かり、揚げ句、妻の千草(黒木瞳)から愛想を尽かされ「卒婚」を提案されるのだった。原作は内館牧子の同名小説。中田秀夫監督。東映配給。2時間5分。



©2018「終わった人」製作委員会